

新たなプランの策定に係る協議の視点の例

○会議中にご発言いただきたい項目

(発言例)

- ①委員の視点による、生み育てやすい地域づくりの課題
- ②こども・若者・子育て当事者へ、アンケート調査したい内容
- ③新たな施策提案や、現行事業の見直し提案

1 家庭・子育てに関する分野【子ども・子育て支援関連】

(1) 少子化を踏まえつつ、実態に合った保育の提供について

- ・母親の就労率（育休等を含む）は就学前児童79.7%、小学生90.2%（実態調査結果②）
- ・3/4以上の未満児が保育園を利用しており、さらに「利用したいが保育・教育に空きがない」「利用したいが経済的な理由で利用できない」の回答あり。（実態調査結果③）
- ・0歳～年少の保護者は「衛生面」、「自然型保育」、「子育て相談に乗ってくれる」など保育の内容や質に、年中以上では「長時間」「乳児保育」など機能拡充に関心あり。（実態調査結果④）

(2) 長期休暇中の放課後児童クラブの利用ニーズの増加について

- ・小学生の長期休暇中の放課後児童クラブの利用希望が大幅に増加（実態調査結果⑥）

2 地域子育て支援に関する分野【次世代育成支援関連】

(1) 地域の中で孤立する子育て家庭の状況について

- ・地域の行事や園・学校の行事への参加（「よく参加している」＋「時々参加している」）割合は高いが、まったく参加していない割合は就学前の保護者で高い。（実態調査結果⑧）
- ・周囲の援助が得られない、孤立した子育て環境にいる保護者は、前回調査と比較して小学生が3.4ポイント増加。子育てをする上で気軽に相談できる相手（先）がいない保護者は、就学前で5.0%、小学生で12.3%（実態調査結果①）

(2) 一層求められる父親の子育て参加と、職場の理解の状況について

- ・育児休業を取得又は取得中の就学前児童の母親は58.8%、父親は14.4%（実態調査結果⑦）
- ・病気やケガで幼稚園・小学校等を利用できなかった場合の対処方法は、「母親が休んだ」が「父親が休んだ」を大きく上回る。（実態調査結果⑤）

(3)子育て環境や支援にかかる情報の浸透力について

- ・ 子育て環境や支援に対する満足度（「高い」＋「やや高い」＋「ふつう」）は、就学前児童保護者で53.4%、小学生保護者で52.1%（実態調査結果⑨）

3 こどもの人権を守り、誰もが将来の夢に寄り添う分野(成育関連ソフト面)

(1)ヤングケアラーの実態調査から

(2)こども・若者当事者(短大・専門学校・高校生)の声から

- ・ 市内には、高等教育を学ぶ機会が限られていて、圏域外へ出て学ぶ。
- ・ 市内には大学がないし、高みを目指したい私立校はない。(think about the future)

4 こども・若者・結婚・定住に関する分野(子ども・若者支援関連)

(1)こども・若者当事者(高校生の研究発表)から

- ・ 高校生アンケートの結果、子育てにマイナスイメージ：プラスイメージ＝8：2
- ・ 「自分の周囲に赤ちゃんはいない。」「日々こどもに関する虐待事件などの報道を見ていると、子育てってたいへんだと思っている。」
- ・ 「でも、赤ちゃんに触れ合ったり、親子との関わりを持つと、こどもって可愛い。子育てって楽しい。と感じ、プラスイメージに変化する。」

5 こども・若者・子育ての『貧困ほか困難』な課題に関する分野(子どもの貧困対策関連)

(1)こども・若者当事者(児童施設の卒業生)の声から

- ・ 専門学校へ通いながらバイト。アップルロード(バイト)へ行くための原付を買うお金がほしい。
- ・ 毎日はゲームが楽しい。やりこんでしまうから朝起きが苦手。彼女がいて起こしてくれたら、生きがいもあるし、生活リズムは整うと思う。
- ・ 一度は都会で自分を試したい。でも、いずれは帰ってきたい。「やっぱ地元は最強でしょ。」
- ・ 彼女ほしい。いずれ結婚したい。でも、自分がこどもを育てられるかは、わからない。

(2) その他こどもの居場所づくり事業の実態から(事務局報告)

6 こどもの成育環境を整備する分野【こども成育関連ハード面】

(1) 猛暑や雨天にも連れて行ける親子交流施設について

- ・動物園は屋外型施設で雨天時に利用しにくい。こどもを連れていける屋内施設（例えば水族館や他市の遊戯施設など）が、付近にあるとよい。
- ・飯田にはつどいの広場がたくさんある。りんご庁舎の「ゆいきっず広場」は土日も開いていて嬉しい。ただし、未就園児向けで上の子を連れていけない。
- ・「猛暑や豪雨など外出できない日に、10歳程度までの兄妹と一緒に連れて行ける親子交流施設がほしい」（やらまいか提案）（市長と語るふれあいトーク）

(2) 保健と児童福祉や成育支援が一体化した「こども家庭センター」について

- ・少子化の進む中、同じ乳幼児健診会場に同じ日に集まる母子が少なすぎて、市内のママ友との出会いがない。
- ・移住したばかりだと、各種の地域子育て情報が一括に入手できて、子育て相談や発達支援など信頼できる個別談がワンストップでできる総合窓口があるとよい。
- ・現在の子育て相談窓口は、①妊娠届は市保健センター、②乳幼児健診は各地区保健師、③発達相談はりんご庁舎こども課、④障がいの相談はこども発達センターひまわり、⑤障がい児福祉は市障害福祉係、⑥ひとり親家庭の子育ては市家庭相談係、⑦保育園は市保育係、⑧額等の相談は市教育委員会事務局に分散していて、移住者でなくても子育て家庭にはわかりにくい。（各窓口での市民の声）（市長と語るふれあいトーク）（社会福祉審議会）

(3) 障がい児・者等の途切れない伴走支援を行う「基幹相談支援センター」について

- ・障がい児等の相談支援は、成人しても途切れない継続的な伴走が必要。特別な支援を要する障がい児・者の総合的な相談支援センターの整備による窓口のワンストップ化を求める。（各窓口での市民の声）（社会福祉審議会）